

寺澤 辰磨 著

ビオレンシアの政治社会史

― 若き国コロンビアの「悪魔払い」 ―

ビオレンシアの政治社会史

―若き国コロンビアの「悪魔払い」―

目次

はじめに

1

序章 コロンビアの概要……………13

一 人口、民族、地勢、歴史など

14

二 地理的条件、人口の動態と社会経済構造

26

第一章 ビオレンシアという社会現象とは？……………33

一 ビオレンシアの意味

34

二 ビオレンシアの分類

37

第二章 政治的ビオレンシア……………41

一 二大政党制の起源と特徴

42

二 政治的ビオレンシアの原因はなにか？

61

三	政治的バイオレンシアの個別要因	68
四	コロンビアの政治史の特質	108

第三章 ゲリラ戦争と麻薬戦争……………123

一	極左ゲリラの出現	124
二	その他のゲリラ組織	134
三	パラミリタリーの出現	141
四	コロンビアの麻薬生産と密売組織の出現	145
五	FARCの勢力盛衰と麻薬	167
六	コカインの生産構造とコカイン対策	192
七	ゲリラ戦争、麻薬戦争の勝算はあるか	209

第四章 一般犯罪としてのバイオレンシア……………217

一	一般犯罪の原因に関する通説的見解	218
二	一九世紀以前の一般犯罪の状況	222
三	二〇世紀以降の一般犯罪の状況	226

四	犯罪要因の理論的分析	236
五	貧困と満足度	245
六	一般犯罪に関する通説的見解の誤謬	254
第五章	ビオレンシアの「悪魔払い」……………	261
	あとがき	279
	(参考資料) コロンビアの歴代大統領	287
	図表一覧	290
	参考文献	293

本文中に掲載した写真は筆者提供によるものである。

著者紹介

てらざわ たつまる

寺澤 辰磨

昭和 22 年、鳥根県に生まれる。

昭和 46 年、東京大学法学部卒業後、大蔵省に入省。

昭和 50 年から 53 年まで在アルゼンチン日本国大使館書記官。

名古屋国税局長、主計局次長、関税局長、理財局長を歴任し、

平成 15 年、国税庁長官に就任。財務省退官後、

平成 19 年から 22 年まで、在コロンビア日本国大使館特命全権大使を務める。

平成 23 年、横浜銀行頭取に就任する。

ビオレンシアの政治社会史

—若き国コロンビアの“悪魔払い”—

アジアを見る眼 113

2011 年 11 月 21 日発行 ©

定価 [本体 1500 円 + 税]

著 者 てらざわ たつまる

寺澤 辰磨

発行所 アジア経済研究所

独立行政法人日本貿易振興機構

千葉県千葉市美浜区若葉 3 丁目 2 番 2 〒 261-8545

研究支援部

電話 043-299-9735 (販売)

FAX 043-299-9736 (販売)

E-mail syuppan@ide.go.jp

<http://www.ide.go.jp>

制 作 ネクサスインターコム有限会社

印 刷 社会福祉法人東京コロニー コロニー印刷

落丁・乱丁本はお取り替えいたします

無断転載を禁ず

ISBN978-4-258-05113-7 C1230

地中海から太平洋まで、この広くアジアと呼ばれる地帯には幾十かの国がある。その大部分は第二次世界大戦以後、古い植民地体制から脱して新興の独立国となったものである。世界の人口の半ば以上のものがここにあり、これらの新興国はそれぞれの立場に立って、建国創業の仕事に力をつくしている。

その業は果たして障害なく着々と進んでおるか。だれもがこれに対して頭をかしげるであろう。そしてだれもがアジアは「流動的である」という。

流動的とは何であるか。また何でないか。いくたの混みいった事態のなかを、一本の金の線が生々発展的に縫っているのも流動的である。経済は着々と成長し、政治は一つの体制のなかで徐々に整備されているような場合がそれである。

アジア諸国の大部分については、事態はこのように簡単ではない。もちろん、経済の場面には大きな発展・成長の芽生えはある。しかし、他面においてそれを抑制するものが力づよい。またおよそ発展や成長を考える場合、在来流行の理解によるパターンを以てするのが果たして正しいか、との疑問もでてくる。さらに政治体制については、イデオロギーの対立、複合民族国家における特殊なナショナリズムに伴う民族や種族間の闘争があつて、政治的安定はなかなか期すべくもない。独立国家の幼年期に伴う政治的、行政的未熟もまた考えられるべき大きな原因である。

こういう次第で、アジアが流動的であるとは、一つの混沌を意味するものといえようか。そしてその上に立っていかなる経済・社会・政治の体制が整いだされるであろうか。——この意味で二〇世紀後半のアジアは世界における「問題」、いな最もおおきな「問題」である。

アジア経済研究所は、まさにこの「問題」の理解に向かつて、ひたすら前進をつづけている。われわれの期するところは、まさにそれぞれの国の現実に即した精確な知識を供しよう、そしてこの大きな「問題」について静かなサービスをいたそうとするに尽きる。設立以来すでに七カ年あまり、専らそういう道を歩んできたし、今後もそれに変わりはない。このシリーズは、多くの研究や調査の報告書、現地調査を土台として、アジアについての解説書・教養書たることを目標とするものである。

一九六六年三月

アジア経済研究所 東 畑 精 一

- | | | | |
|-----|-----------------------------|---------|---|
| 97 | アフリカの人口と開発 | 早瀬保子 著 | 人口急増、エイズ、一夫多妻婚、保健衛生、難民問題等、ジンバブエに長期滞在していた人口学者がアフリカ人口問題の現状とその背景を、最新資料で解説するアフリカ人口学入門書。一九九九年四月刊 一四〇〇円＋税 |
| 98 | 市場発生ダイナミクス | 丸川知雄 著 | 計画経済の殻を破って市場経済がダイナミックに誕生している中国。現地での企業インタビューを通じて、産業の現場から市場経済が発生するとはどういうことかを考察する。一九九九年四月刊 一四〇〇円＋税 |
| 99 | アジア通貨危機と金融危機から学ぶ | 國宗浩三 著 | アジア通貨危機のメカニズムを解説し、その原因についての諸説を検討する。IMFの対応の問題点や、現在アジア諸国で進みつつある企業や銀行の再建についても考察する。二〇〇一年三月刊 一四〇〇円＋税 |
| 100 | イエメンものづくし
モノを通してみる文化と社会 | 佐藤 寛 著 | 日本とは気候も歴史も言語も異なる「アラブの田舎」イエメン。そこで暮らしていると出会う奇妙なモノの数々、そんなモノどもの背景をのぞくことでイエメンの文化と社会を理解しようとする。地域研究者のフィールドノート。二〇〇一年三月刊 一四〇〇円＋税 |
| 101 | 北京からの「熱点追踪」
現代中国政治の見方 | 佐々木智弘 著 | 共産党による一党支配はどのように維持されているのか北京大学、政治改革、日中関係、中国共産党の四つの舞台から、答えを探る。二〇〇一年二月刊 一四〇〇円＋税 |
| 102 | スラウエシだより
地方から見た激動のインドネシア | 松井和久 著 | スハルト政権崩壊前後の五年間をスラウエシ島で暮らした筆者が、激動のインドネシアを地方からの視点で捉えた臨場感あふれる観察記録。二〇〇二年三月刊 一四〇〇円＋税 |
| 103 | 中国の石油と天然ガス | 神原 達 著 | 三〇年間中国の石油産業を調査してきた著者が、改革と発展を続ける石油、天然ガス産業の現状と将来を見通し、需要増大で大石油輸入国となる中国の石油安定確保政策をも論じる。二〇〇二年二月刊 一四〇〇円＋税 |
| 104 | ガーナ 混乱と希望の国 | 高根 務 著 | カカオの産地として有名な、西アフリカの国、ガーナ。この国の豊かな文化と歴史を辿り、そして私たちが同時代を生きているガーナのくらしを、等身大の視点で描く。二〇〇三年二月刊 一一〇〇円＋税 |

- | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-------------------------|-----|---|-----|--|-----|------------------------|-----|----------------------|-----|---|-----|--------------------------------|-----|---------------------------------|
| 112 | インド 児童労働の地をゆく
田部 昇 著 | 111 | 貧困国への援助再考
ニカラグア草の根援助からの教訓
加賀美充洋 著 | 110 | 社会主義後のウズベキスタン
変わる国と揺れる人々の心
ティムール・
ダダバエフ 著 | 109 | ロシア資源産業の『内部』
塩原俊彦 著 | 108 | 石油大国ロシアの復活
木村眞澄 著 | 107 | 貧困削減と世界銀行
9月11日米国多発テロ後の大変化
朽木昭文 著 | 106 | テヘラン商売往来
イラン商人の世界
岩崎葉子 著 | 105 | アジアの人口
クローバル化の波の中で
早瀬保子 著 |
|-----|-------------------------|-----|---|-----|--|-----|------------------------|-----|----------------------|-----|---|-----|--------------------------------|-----|---------------------------------|
- 多産多死から少子高齢化、児童労働と都市化、エイズ・HIVの拡大と国際労働移動など、多様なアジアの人口問題を考察し、その将来を展望する。
二〇〇四年三月刊 一四〇〇〇円十税
- 一〇年にわたる調査で覗いたイラン商人の世界。客あしらいや義理人情など、商売の極意を彼ら自身の言葉で綴る。宗教や政治の本では決して読めない生身のイランが見えてくる。
二〇〇四年七月刊 一四〇〇〇円十税
- 二〇〇一年九月十一日米国同時多発テロが開発のあり方にも影響し、貧困削減が地球的な課題となった。本書は、世界銀行の貧困削減戦略を示し、筆者の成長戦略を提案する。
二〇〇四年九月刊 一四〇〇〇円十税
- 石油生産の回復とともに力強さを取り戻しつつあるロシア経済。サウジアラビアと並ぶ世界最大の産油国であるロシアの石油について、その特質を分析し、今後の方向を展望する。
二〇〇五年三月刊 一四〇〇〇円十税
- 世界的な関心を集めるロシアの石油・ガス産業を、政治との関係をはじめ企業集団ごとに詳細に分析した力作。
二〇〇六年一月刊 九八〇円十税
- ソ連邦と社会主義という制度が崩壊した後、人々はそのような理想や夢を抱き、悩みを抱えているのか。国家、社会、そして家族に対する考え方はどのように変化したのだろうか。
二〇〇八年六月刊 九八〇円十税
- 日本のODAは役に立ち、我が国の国際的な立場を強化しているのか。少額でも成果の高い「草の根・人間の安全保障無償資金協力」をニカラグアでの豊富な具体例と写真で解説する。
二〇〇九年一月刊 九八〇円十税
- インドの手織りカーペット、宝飾品、伝統的染織品の生産現場には学校にも通わずに働く幼い子ども達の姿がある。九〇年代に行ったフィールド調査に基づきインドにおける児童労働の実態を報告し、開発論の視点から「いま、なぜ児童労働か」を問う。
二〇一〇年二月刊 一四〇〇〇円十税